

高等学校における教科指導の充実

地 理 歴 史 科

言語活動を取り入れた  
「日本史B」の指導

栃木県総合教育センター  
平成23年3月

# ま え が き

21世紀は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われていています。そのような時代を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になります。また、各種の調査からは、日本の児童生徒について、思考力・判断力・表現力、知識・技能の活用、学習意欲、学習習慣・生活習慣などで課題があると分析されました。このような状況を踏まえて、平成20年1月の中央教育審議会答申で学習指導要領の改訂の方向性が示され、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示されました。

平成22年12月に公表されたOECD生徒の学習到達度調査（PISA2009年）の結果においては、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーのそれぞれで下位層が減少し、上位層が増加したことから、読解力を中心に日本の生徒の学力は改善傾向にあると考えられていますが、課題は依然として残されています。今後とも引き続き、基礎的・基本的な知識の習得や、問題解決のための思考力・判断力・表現力の育成に努めていくことが求められます。

栃木県総合教育センターでは、基礎・基本の確実な定着を図る教科指導の在り方について研究するとともに、その成果を普及することで生徒の学力の向上に資することを目的に、平成17年度から「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」を行ってきました。今年度は、昨年度に引き続き、「今回の学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各種調査の結果から指摘されている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探る」ことに重点を置き、国語科、地理歴史科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で調査研究に取り組みました。本冊子はその成果をまとめたものであり、教科指導を充実させる一助として、御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成23年3月

栃木県総合教育センター所長

瓦 井 千 尋

# 目 次

はじめに	1
事例1 絵画資料の読み取りをもとに、13世紀の社会の様子を表現する授業	4
事例2 18世紀の人々の生活の様子について、複数の資料を組み合わせて考察する授業	17
事例3 地域の歴史に関する資料の読み取りをもとに、社会的背景について考察し、表現する授業	33
おわりに	46

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

## はじめに

### 1 調査研究の背景

平成21年3月に告示された学習指導要領の改訂においては、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA調査）」など各種の調査から明らかにされた、次のような課題が反映されている。

- ①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題において、無答率が高いという課題が見られる。
- ②読解力に関しては成績分布の分散が拡大し、成績中位層が減り、低位層が増加している。
- ③家庭での学習時間の減少など、学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題が見られる。
- ④自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られる。

特に、教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが重視されている。その実現のためには、「習得・活用・探究」のバランスを取った学習活動の展開が重要であり、高等学校学習指導要領解説の総則では、次のように述べられている。

<高等学校学習指導要領解説総則 第1章 総説 第2節 改訂の基本方針（抜粋）>

②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。

また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

これらのことを踏まえつつ、各種調査の結果から指摘されている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探る調査研究に取り組んだ。

---

※本冊子においては、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成21年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」として記す。

## 2 日本史における言語活動の充実

平成21年3月に告示された学習指導要領の地理歴史科における改訂の要点は次の3点である。

①科目相互の関連の重視

②課題を探究する学習を柱とする言語活動の充実

③地図や年表など様々な資料を活用した学習の一層の重視

特に「言語活動の充実」は、各教科等を貫く改善の重要な柱として中教審答申に示された。地理歴史科では言語活動を充実させる柱として、課題を探究する学習の充実が図られた。また、その際には地図や年表など様々な資料を活用した学習を取り入れることが重視されるようになった。日本史A及び日本史Bでは、諸資料を活用して歴史を考察し表現する学習の重視が改訂の柱となり、それに関連する大項目及び中項目が設定された。

<p>〈日本史A〉</p> <p>(1) 私たちの時代と歴史(科目の導入)</p> <p>(2) 近代の日本と世界 ウ 近代の追究</p> <p>(3) 現代の日本と世界 ウ 現代からの探究(科目のまとめ)</p>	<p>〈日本史B〉</p> <p>(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料(科目の導入)</p> <p>(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈</p> <p>(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明</p> <p>(6) 現代の日本と世界 ウ 歴史の論述(科目のまとめ)</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

上の表に見るように、各中項目（アまたはウで示す）が通史的な学習内容の中に位置付けられている。これは、今回の改訂で、「導入とまとめの重視による学習内容のより深い理解と確かな定着」が図られているためである。また、日本史Bにおいては、資料を活用する学習を計画的に行うことで、歴史学習にかかわる基本的な技能を段階的に高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付けさせることが図られている。

「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」において、日本史Bに関して示された課題の中に、以下の3点がある。

①複数の資料から情報を読み取り、知識と関連付けて思考する力に課題があると考えられる。

②資料の読み取りの成果を自分の言葉で適切に表現する力に課題があると考えられる。

③時代の特色を大きくとらえる力に課題があると考えられる。

また、教師に対する質問紙調査においても、「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っている」、「学校図書館を活用した授業を行っている」、「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っている」、「観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っている」と回答した教師の割合はいずれも10%未満であり、特に「学校図書館を活用した授業を行っている」と「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っている」と回答した割合は前回（平成15年の調査）の時よりも下がっていた。

以上の点を踏まえ、本調査研究では日本史Bにおいて、資料を活用して、考察したり、その内容を説明したり、自分の考えを表現したりする言語活動を取り入れた実践を行った。

各事例の実践内容は次のとおりである。

### **事例1** 絵画資料の読み取りをもとに、13世紀の社会の様子を表現する授業

『一遍上人絵伝』の読み取りで抱いた疑問について、書籍などで調べ、そこから得られた情報をもとに13世紀の社会の特徴を表現する学習活動を通して、資料の読み取りに対する意欲を高めたり、事象に対する興味・関心を高めたりするとともに、調べたことを表現する力を育成することを目指した。

### **事例2** 18世紀の人々の生活の様子について、複数の資料を組み合わせて考察する授業

18世紀の人々の生活を題材に、それに関連する複数の資料から読み取れる情報を関連付けて、生活の様子について考察し、発表したり文章で表現したりする学習活動を通して、事象に対する興味・関心を高め、事象に対する多面的・多角的な見方を育成することを目指した。

### **事例3** 地域の歴史に関する資料の読み取りをもとに、社会的背景について考察し、表現する授業

学制が地域社会にどのような影響を与えたかについて、栃木県内の資料を活用して、資料の内容を読み取り、社会的背景を考察する学習活動を通して、学習内容に対する興味・関心を高めることを目指した。

#### **<研究協力委員>**

栃木県立益子芳星高等学校	教諭	福田 智保
栃木県立烏山高等学校	教諭	藤井 啓太
栃木県立さくら清修高等学校	教諭	金沢 誠

#### **<研究委員>**

栃木県総合教育センター研修部	指導主事	豊住 隆行
----------------	------	-------

## 事例1 絵画資料の読み取りをもとに、13世紀の社会の様子を表現する授業

### 1 ねらい

新学習指導要領において、「日本史B」では大項目「(2)中世の日本と東アジア」に中項目「ア 歴史の解釈」が設けられた。ここでは「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象等の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」ことがねらいとされている。この中項目は、大項目「(1)原始・古代の日本と東アジア」の中項目「ア 歴史と資料」において、歴史資料の特性に注目したり、資料にもとづいて歴史が叙述されたりしていることを理解する学習をしていることを受けて、実際に歴史資料を活用して、その読み取りや解釈を行う項目として位置付けられている。また、その例として、ある時代の経済を理解するために絵図や絵巻物の読み取りを行うことが挙げられている。

これを踏まえて、本事例では、『一遍上人絵伝』を歴史資料として取り上げ、そこから読み取れる事象をもとに、13世紀の社会の様子について文章で表現するという学習活動を行った。言語活動を充実させるには、歴史資料そのものへの興味・関心が高まっていることが大切である。絵画資料の読み取りを行うことで、生徒の興味・関心を引き出し、調べたり、発表したり、まとめたりする一連の学習が円滑に進むのではないかと考えた。また、単に絵画資料の読み取りに終わるのではなく、それを学習の導入に位置付け、読み取りから抱いた疑問点について、調べた内容を発表したり、文章でまとめたりする活動を通して、表現力を育成することを目指した。また、通史的な学習内容との関連付けを重視し、単発的・トピック的な授業にならないよう注意した。

なお、実践は第2学年を対象に行った。

### 2 授業実践

#### (1) 指導目標

- ・絵画資料の読み取りから抱いた疑問点を文章に表現することができる。
- ・疑問点について、他の資料で調べたり、班の中で意見交換したりすることを通して考察することができる。
- ・調べたことや、他の班の発表で得られた情報を踏まえて、13世紀の社会の様子について、文章でまとめることができる。

#### (2) 指導計画（3時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	・『一遍上人絵伝』を見て、疑問に思った点や興味をもった点について、班で話し合っ仮説を立てる。 ・班で調べるテーマを決める。	・自由に発言できる雰囲気をつくる。 ・班員のそれぞれの仮説を尊重して話し合いを進めさせる。	・資料に関心を示し、意欲的に読み取りを行っている。 【関心・意欲・態度】 〔ワークシート、話し合い〕
2	・班で決めたテーマについて書籍やインターネットを活用して調べる。 ・発表に向けて調べた内容をまとめる。	・自分たちが立てた仮説と調べた結果とを区別してまとめさせる。	・書籍やインターネットを活用し、集めた情報を適切にまとめている。 【資料活用の技能・表現】

			[話し合い、発表用資料]
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめた内容をわかりやすく発表する。</li> <li>・一連の学習活動で得られた情報を踏まえて、13世紀の社会の様子について、各自で文章にまとめる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手にとってわかりやすい発表をしている。</li> <li>・収集した情報を踏まえて、文章を書いている。</li> </ul> <b>【資料活用の技能・表現】</b> <b>【思考・判断】</b> [発表、ワークシート]

### (3) 授業の概要

#### ① 1時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習内容の予告と教科書の関連する内容を確認する。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『一遍上人絵伝』についての説明を聞く。</li> <li>・『一遍上人絵伝』を見て、疑問に思った点や興味をもった点をワークシートに書き出す。</li> <li>・各自が書き出した疑問点や興味をもった点について、班で話し合っ仮説を立てる。</li> <li>・班で調べるテーマを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作年代(13世紀後半)と描かれている場所(備前国福岡市)について、既習事項を踏まえて説明する。</li> <li>・各班に1枚ずつ、『一遍上人絵伝』(A3判に拡大しカラーコピー)を配付する。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の学習内容についての予告を聞く。</li> </ul>	

1時間目の授業に先立ち、生徒をA～Jの10班に編成させておいた。当日は、予め班ごとに着席させておき、『一遍上人絵伝』のカラーコピーを各班に1枚ずつ配付した。コピーが配付されると、多くの生徒が身を乗り出して見入るなど、生徒の資料に対する関心が高まっている様子が見られた。

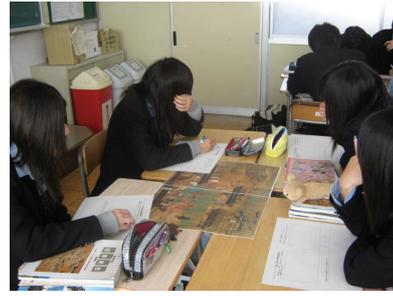
『一遍上人絵伝』に関しては、製作年代、描かれている備前国福岡市の現在の場所(岡山県南部)、さらに主題について説明し、既習事項の内容と関連付けるよう配慮した。

説明の後、『一遍上人絵伝』を見て疑問に思った点や興味をもった点を、各自のワークシート<『一遍上人絵伝』備前福岡市を読もう>(資料1)に記入させた。どのようなことでもよいので積極的に書き出すよう促し、意欲を高めるようにした。また、展開の後半では、各自がワークシートに書き出した事項を班内で発表し、それぞれについて話し合いで仮説を立てる作業を行った。さらに、その中から班で調べるテーマを決めさせた。

なお、資料の読み取りを実際に始めたところ、人物に関する疑問が多く取り上げられていたため、人物以外にも注目させた。



(疑問点を書き出す)



(班で調べるテーマを決める)

生徒が書いたものの中からいくつかを紹介する。

疑問に思ったことや興味をもったこと	仮 説
<b>①壺に関するもの</b>	
・大きな壺が置かれているのはなぜか。	→ →中に酒や米が入っているのではないか。
・壺がたくさんあるのは何に使うのか。	→ →保存食が入っているのではないか。
<b>②人物に関するもの</b>	
・帽子のようなものを被った女性が多い。	→ →防寒対策ではないか。
・船に乗っている人は何をしているのか。	→ →漁師ではないか。
・お坊さんの前に立っている男は、なぜ刀を抜こうとしているのか。	→ →金銭トラブルでもあったのではないか。
・白い布を着ている女性は何者か。	→ →当時の女性の風習だったのではないか。
・男が持っている楽器は何か。また、男の職業は何か。	→ →楽器は琵琶ではないか。男は琵琶を演奏する演奏家ではないか。
・上半身裸の男性は何者か。	→ →貧しい身分で物乞いをしているのではないか。
<b>③商品に関するもの</b>	
・売られている魚はどこで採ったのか。	→ →川や海の両方が近いので、川魚も海の魚もあるのではないか。
・魚屋にいる緑色の鳥は売り物か。	→ →魚屋のペットではないか。
・野菜が売っていないのはなぜか。	→ →なぜかわからなかった。
<b>④船に関するもの</b>	
・2隻ある船は何に使うのか。	→ →箱のようなものが見えるので、何か荷物を運ぶための船ではないか。

授業の様子を見ると、各自が疑問点を書き出す活動よりも、班内で話し合ってそれぞれについて仮説を立てる活動の方に多くの時間をかけている班が多かった。班で調べるテーマの決め方は各班に任せた。班員が出した疑問点の中から一つを選び、それをテーマとする班や、疑問点のいくつかを関連付けてテーマを作った班、さらには、仮説を立てる話し合いの過程で新たに生まれた疑問点をテーマにする班があった。いずれの場合にも、決定するには班内で十分に話し合い、全ての班員が意欲的に活動に参加できるようなテーマにするよう注意を促した。

資料 1

ワークシート＜『一遍上人絵伝』備前福岡市を読もう＞

2年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

＜1時間目＞

作業1 『一遍上人絵伝』を見て、疑問に思ったことや興味をもったことを箇条書きで書き出してみよう。

作業2 上に書いた項目について、班のメンバーと話し合っ、仮説を立ててみよう。

作業3 班で調べるテーマを決めよう。

テーマ

＜2時間目＞

作業4 テーマについて調べよう。

※調べたことや話し合ったことはノートに書いておこう。

※「発表用原稿」と掲示資料を作成しよう。

＜3時間目＞

作業5 発表をしよう。

作業6 今回の学習活動を通して、13世紀の社会の様子はどのようなものであったか、文章でまとめよう。

## ② 2 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	・ 本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 45分	・ 前時に決めたテーマについて、各班で調べる。 ・ 調べた内容を整理し、「発表用原稿」を書く。また発表の際の掲示資料を作成する。	・ 掲示資料は B 4 判 2 枚にまとめさせる。
まとめ 2分	・ 次回の学習内容についての予告を聞く。	・ 発表時の役割分担をさせる。

調べる際には、教科書や資料集の他、図書館にある書籍を積極的に活用させた。また、必要に応じてインターネットも利用させた。いずれの場合も、利用した書籍やインターネットのアドレスなどを控えておくよう指示した。調べた内容を十分伝えられるよう、「発表用原稿」(資料 2)を作成させ要点を箇条書きにまとめさせた。また、要点をまとめた掲示資料を B 4 判 2 枚で作成させ、発表会終了時、全ての班の内容を黒板で一覧できるようにした。

各班が調べたテーマは以下のとおりである。

### ①壺に関するもの

J 班 「大量にある壺は何なのか。」

### ②人物に関するもの

A 班 「布を持っている女性とその前に立つ男性は何をしているのか。」

F 班 「船に乗っている男性の職業は何か。」

G 班 「布を持っている女性はクリーニング屋ではないのか。」

I 班 「琵琶のような楽器を弾いている男性は何者か。」

### ③商品に関するもの

C 班 「魚屋にいる鳥は何なのか。」

D 班 「この市で売られているものは何か。」

E 班 「この市は月に何回開かれ、何が売られていたのか。」

### ④船に関するもの

B 班 「川に浮かんでいる 2 隻の船の用途は何か。」

H 班 「船は何を運ぶためのものか。」



(書籍で調べている様子)



(わからないところはアドバイス)

## 資料 2

### 「発表用原稿」 < 『一遍上人絵伝』 備前福岡市を読もう >

2年 組 番 名前 \_\_\_\_\_ ( ) 班

1 私たち ( ) 班は、「 \_\_\_\_\_ 」について調べました。

2 使用した資料

- ・ 著者名 『 書名 』 出版社名、発行年、引用した頁。
- ・ インターネットのホームページ名、アドレス。
- ・
- ・
- ・

3 調べて分かったこと

※要点を、話す順番に、箇条書きでまとめよう。

### ③ 3 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の活動内容の説明を聞く。</li> </ul>	
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「発表用原稿」にもとづいて発表する。</li> <li>・ 各班の発表を聞き、必要な情報をメモに取る。</li> <li>・ 各班の発表について、評価をする。</li> <li>・ 一連の学習活動で得た情報をもとに、13世紀の社会の様子について、ワークシートに文章でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一班3分で発表させる。</li> <li>・ 発表内容に対する疑問点もメモに取らせる。</li> <li>・ 発表の内容や、わかりやすさなどに注目させる。</li> </ul>
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に関するアンケートに回答する。</li> </ul>	

「日本史B」の授業で発表会を行うのは初めてであった。そのため、生徒の多くが発表に不慣れであると考え、「発表用原稿」（資料2）を前時に作成させて、発表を聞くときには、新しい情報や興味をもったこと、疑問に思ったこと等をメモするよう指示した。疑問に思ったことは、全ての班の発表が終わった後に質問するよう指示した。また、各班の発表に対しては、「発表評価シート」（資料3）を用いて評価させた。



（『絵伝』を指さしながら説明）



（手分けして資料を掲示）



（班員全員が前に出て発表）



（最後の班の発表が終了した時点の黒板）

発表では、各班とも要点を押さえた説明ができており、「発表用原稿」の効果が表れたと言える。また、聞く側の生徒も黒板の方を向いて聞いたり、メモを取ったりするなど意欲的な姿勢が見られた。「発表用原稿」に書かれた内容から、各班の発表内容を紹介する。

< A班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「布を持っている女性とその前に立つ男性は何をしているのか。」

◎発表内容

- ・画面左側の上部に男が描かれている。笠をかぶって布を持った女性の前に立っているが、道を尋ねているように見えた。
- ・よく見ると男は手にお金を持っている。
- ・これは銭の穴にひもを通して束ねたもので「銭さし」という。
- ・鎌倉時代は「銭さし」の状態でも保管、流通していた。
- ・12世紀末から宋銭の輸入が増加したので、この銭は宋銭であると考えられる。
- ・男は宋銭の「銭さし」で布を買おうとしていると考えられる。

< B班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「川に浮かんでいる2隻の船の用途は何か。」

◎発表内容

- ・船に箱のようなものが積まれているので、これは漁船ではなく荷物の運搬船と考えられる。
- ・船から降りようとしている男も荷物を抱えている。
- ・備前国福岡の市は吉井川の岸にできたそうである。吉井川は水運が盛んで、瀬戸内海の海運とも連絡し、商品を全国に運んでいたらしい。
- ・2隻の船は、吉井川で商品を運搬している船であると考えられる。

< C班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「魚屋にいる鳥は何なのか。」

◎発表内容

- ・鳥は天井からつるされているように見える。生きている鳥ならかごに入っているはず。
- ・従って、この鳥はペットではなく売りもの。猟での獲物。
- ・インターネットで吉備国際大学の教授の論文をみたところ、これは売られている山鳥であると書かれていた。
- ・緑色の比較的大きな鳥なので、この山鳥はきじのオスではないか。
- ・この店は魚のほかに、鳥や干しタコも売られている。

< D班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「この市で売られているものは何か。」

◎発表内容

- ・壺…これは備前焼で水を蓄えたり、酒の醸造に使われたりした。
- ・履物…下駄が売られている。
- ・布…染色されたものと白いままのものがある。
- ・食料…魚と米。米は俵に入っていて升で量り売りしている。

< E 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「この市は月に何回開かれ、何が売られていたのか。」

◎発表内容

- ・福岡市は月に3回開かれる三斎市であった。
- ・売られているものは、備前焼の壺、下駄などの履物、布、米、魚、鳥。
- ・壺は何かの貯蔵用だったのか。
- ・多くの人が日用品や食料をこうした市場で買っていた。

< F 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「船に乗っている男性の職業は何か。」

◎発表内容

- ・船に乗っている職業なので、運送業者か漁師のどちらかであろう。
- ・船に箱がのっているのがこれは荷物ではないか。つまり、この船は運送用と思われる。
- ・インターネットで吉備国際大学の教授の論文を見たところ、布を買っている男性の履物は足半というらしい。これは、高瀬舟という運送船の船頭に多く用いられたらしい。論文によれば、そのことから、この男性は運送船の船頭であろうとしている。
- ・以上の点から、画面にある船は高瀬舟という運送船と考えられる。

< G 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「布を持っている女性はクリーニング屋ではないのか。」

◎発表内容

- ・川も近くにあるのでクリーニング屋と思った。しかし、店の中に掛けられている布が綺麗なため、これは売り物だと思う。
- ・女性の前に立つ男性は、手に銭の束を持っている。布を買うためだろう。
- ・店の前に座っている女性は、布を手にとって丁寧に見ている。買おうかどうか迷っているのでは。
- ・以上の点から、この女性は布を売っている店の店員。ちなみに、かぶっている笠は市女笠という。当時の女性に用いられたもの。

< H 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「船は何を運ぶためのものか。」

◎発表内容

- ・船に乗っている荷物をみると、一隻の方には四角い箱、もう一隻の方には笠と桶のようなものがある。
- ・船から降りようとしている男も両手に荷物を抱えている。そのひとつは筒のように見える。
- ・船の下の所に俵を積んだ馬が見える。米は船ではなく馬で運ばれたのか。
- ・船は、この市で売買される商品を運んだ。ただし、米は馬が運んだと考えられる。

< I 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「琵琶のような楽器を弾いている男性は何者か。」

◎発表内容

- ・この楽器はその形から見て琵琶である。
- ・授業でやった琵琶法師ではないか。市に来ている人を相手に平曲を語っているのだと思う。
- ・しかし、琵琶法師は僧侶のかつこうをしているはず。この男性は髪の毛やひげを伸ばし、烏帽子を付けている。服も僧侶の服とは違う。
- ・琵琶法師ではないが、琵琶を演奏する演奏家のような仕事をしていると考えられる。

< J 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「大量にある壺は何なのか。」

◎発表内容

- ・備前国は備前焼の産地。描かれているのは備前焼のかめ。
- ・備前市のホームページなどによると、備前焼は鎌倉末期から福岡市に集められ、吉井川で河口の片上港に運ばれた。さらに瀬戸内海の内海運で全国に販売されたらしい。
- ・画面中央の建物の下に転がっているものは、中が空なので、かめ自体を売っている。備前焼のかめは、水がめや穀物入れ、酒の醸造用に利用された。
- ・画面右端の立ててふたをしてあるかめは、水や酒を入れておくものであろう。

発表の内容を見ると、描かれた事象の背景についても調べられていることがわかる（下線を付けた部分）。発表が全て終わってから、ワークシート（資料 1、p 7）の作業 6（「今回の学習活動を通して、13世紀の社会の様子はどのようなものであったか、文章でまとめよう。」）を行わせた。

生徒の書いた文章の一部を紹介する。

< 生徒 1 >

お互い思いやって物と物の交換や物とお金の交換をしていた。機械や電子に頼らず、自分の力で輸送や話し合いをしていた。

< 生徒 2 >

市を盛んに開いて、魚、布、ツボなどを売って、お金のやり取りをしていた。庶民の交流の場が市だった。また、船や馬を使って物の輸送が陸でも水のところでも行われていた。

< 生徒 3 >

それぞれの人自分たちで売物を作ったり、とったりして、その売り物を市を開くことによってお金を手に入れ、その銭で自分に不足している物を買ったりしていた。市を開くことで、人と人がかかわって生活していたのだと思う。

<生徒4>

鎌倉時代は、船とか馬で物を輸送していた。そして、市にそれらを持ってきて、人々は市で物を買って生活していた。

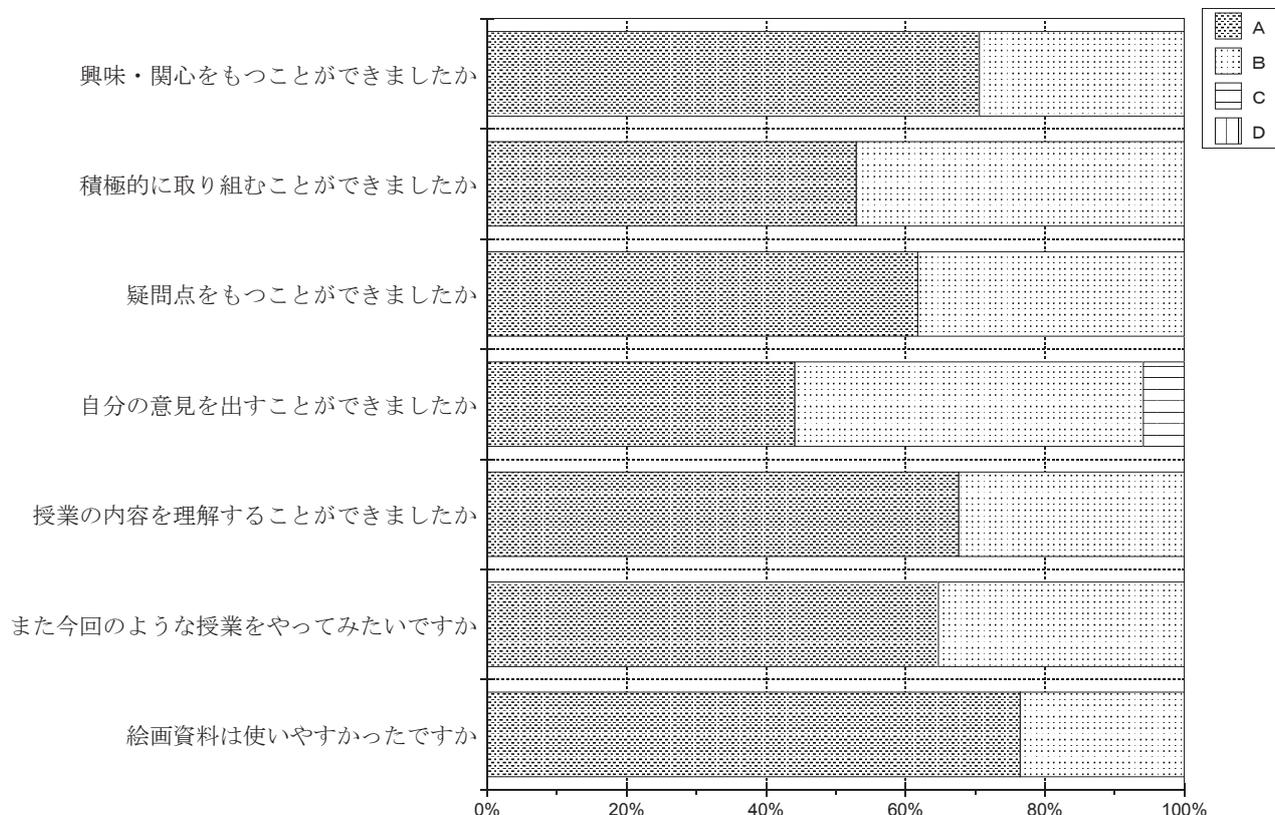
<生徒5>

月に3回ほど市が行われていて、とても活気に溢れていて、愉快的暮らしをしているようだ。貧しい感じもあるけれど、商売人がいて、買い物客がいて、楽器を弾く人や子供もいて、温かみがある。

書かれた内容を分類すると、<生徒1><生徒2><生徒3>のように、貨幣の普及や市場の役割に関する内容を書いた生徒が15名いた。<生徒4>のように輸送の役割に関する内容を書いた生徒が4名、<生徒5>のように、人々が協力し合っていた時代であるとか、市場の活気ある様子から豊かな時代だったのではないかという内容を書いた生徒が15名いた。特に、この時代の学習内容として重要な貨幣の普及や市場の発達、輸送の発達といった事項について、自分の言葉で書けた生徒が出たことは大きな成果である。絵画資料への興味を導入に、学習活動を進めてきた成果ではないかと考える。

(4) 生徒による授業評価

3時間目の終了後、アンケート用紙を配付し、後日回収した。集計の結果は以下のとおりである。なお、評価はAが「あてはまる」、Bが「どちらかというにあてはまる」、Cが「どちらかというにあてはまらない」、Dが「あてはまらない」である。



アンケートの結果を見ると、生徒の興味・関心が高いことがわかる。また、資料の読み取りなどから疑問点をもつこともできており、そうしたことが授業の内容の理解につながったと考えられ

る。一方、「自分の意見を出すことができましたか」という質問に対する評価が若干低い。1時間目の最初に、絵画資料を見て疑問点などを出す作業を行ったが、その後の班別の活動の中で、そこで出された個別の疑問点が十分生かせなかったかという生徒の声を聞いた。こうしたことが、評価の低さにつながっていると思われる。

また、自由記述の欄には次のような感想が書かれていた。

- ・皆と考えたり、調べたりすることがよかった。
- ・自分で考えるという事で、教科書を読むだけの授業よりも理解ができた。
- ・いろいろな意見が聞けてためになる授業だった。
- ・友達とグループになっていろいろな意見を言ったりして、いつもより興味関心がもてた。
- ・みんなの意見を聞いて、自分と比べたりすることができてよかったと思う。
- ・とても楽しく、鎌倉時代のことが少し分かった。
- ・今回の授業を通して、歴史に興味をもつことができた。
- ・今までより資料などをよく見ることができた。
- ・いろいろなことが分かって、歴史に興味をもった。

感想からは、グループ学習や資料を活用した学習が、生徒の授業の内容に対する理解を深めたり、興味・関心を高めたりしていることが読み取れる。また、今回の授業の内容だけではなく、歴史に対する興味をもつようになったという感想も多く見られた。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、絵画資料の読み取りを学習の導入に位置付けることで、生徒の歴史事象に対する興味・関心を高め、さらに読み取りで抱いた疑問点などについて調べたり、その内容を発表したり文章に書いたりするなどの活動を通して、表現力を育成することを目指した。

すでにアンケートの分析のところで述べたように、絵画資料を用いたことで生徒の興味・関心を高めることができたと言える。また、今回の授業を通して歴史に対する興味をもつようになったという感想も見られるなど、絵画資料を用いることの効果が大きいことがわかった。表現力の育成に関しても、多くの生徒が、調べてわかったことや他の班の発表を聞いて、13世紀の社会の様子について自分の言葉でまとめていた。さらに、貨幣経済の発達や輸送、商業の発達など、13世紀の社会についての学習内容の要点とを、多くの生徒が書いていることは大きな成果であると言える。

今回使用した『一遍上人絵伝』の備前国福岡市の場面には、様々な事物が描かれており、生徒が、描かれている人物や売られている商品、船や馬など様々な点に注目して資料を読み取ることができた。このことは、活動が活発になったり、発表を通して生徒が様々な情報を得たりする上で有効であったと思われる。

#### (2) 課題

今回の実践では、各自で絵伝を読み取り、疑問点を書き出すことから始めた。さらに、各自が書き出した疑問点について班内で話し合い、班で調べるテーマを決定させた。書籍やインターネットなどを活用して調べる活動を行うためには、班で調べるテーマを一つに絞ることが必要であると考え、このような流れとした。その結果、各班の発表内容に見られたように、絵伝に描かれ

た事象の背景についても調べることができるなどの効果があった。一方、最初の活動で出された各自の疑問点とその後の活動に生かされないという問題も出た。

各自が抱いた疑問点とその後の活動の中に生かすことは、生徒の学習意欲を高める上で不可欠である。上に述べた問題を解決するためには、各班で調べるテーマを二つにしたり、同じテーマを調べる班が出ないように教師が調整をしたりすることで、生徒ができるだけ多くのテーマを調べることができるようにするなどの工夫が必要である。

## 事例2 18世紀の人々の生活の様子について、複数の資料を組み合わせる考察する授業

### 1 ねらい

新学習指導要領において、「日本史B」では、歴史を考察し表現する学習が重視された。これは、学習指導要領の改訂の柱である言語活動の充実を受けたものである。具体的には「はじめに」の「2 日本史における言語活動の充実」で述べたように、大項目(1)、(2)、(3)及び(6)に、関連する中項目が設置され、通史的な内容を扱う学習と関連付けながら、資料を活用する学習を計画的に実施することで、歴史学習にかかわる基本的な技能を、段階的に高めていくことが期待されている。さらに、これに関して、内容の取扱いでは「様々な資料の特性に着目させ複数の資料の活用を図って、資料に対する批判的な見方を養うとともに、因果関係を考察させたり解釈の多様性に気付かせたりすること。」と記されている。

これを踏まえて、本事例では、農民を中心とする18世紀の人々の生活を題材とし、それに関連する複数の資料を活用し、そこから読み取れる情報をもとに生活の様子を文章で表現したり、発表したりするという学習活動を行った。これを通して、資料の内容を読み取り、因果関係を考察し、その内容を説明したり、自分の考えを文章で表現したりするといった言語活動の充実を図った。また、事象に対する興味・関心を高めたり、事象に対する多面的・多角的な見方を育成することを目指した。

なお、実践は第3学年を対象に行った。また、この実践を行った学校の授業時間は45分であり、1日7時間の授業を実施している。

### 2 授業実践

#### (1) 指導目標

- ・必要な資料を複数選択し、その資料の内容を読み取ることができる。
- ・複数の資料から読み取れることを関連付けて、文章にまとめ、発表することができる。
- ・一連の活動を通して得られた情報を踏まえて、事象について多面的・多角的な視点から文章を書くことができる。

#### (2) 指導計画（5時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	・代表の生徒が作成した資料にもとづき、18世紀の人々の生活の様子について仮説を立てる。	・教科書や資料集も参考にさせる。	・学習した内容や資料をもとに、仮説を立てている。 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 〔ワークシート〕
2	・1時間目に立てた仮説を発表して班全体の共通した時代像をつくる。 ・必要な資料を選択する。	・班員のそれぞれの仮説を尊重して話し合いを進めさせる。 ・二つ以上の資料を選択させる。	・班での話し合いにもとづいて、複数の資料を選択している。 【思考・判断】 〔話し合い〕
3	・選択した資料を読み取り、内容を	・要点をわかりやすく	・資料から読み取った内容

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連付ける。</li> <li>・ 発表に向けて読み取った内容を模造紙にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 示したり、図を使用したりするなどの工夫をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ をわかりやすくまとめている。</li> </ul> <p>【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 [発表資料]</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめた内容をわかりやすく発表する。</li> <li>・ 一連の学習活動で得られた情報を踏まえて、18世紀の人々の様子について各自で文章にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メモを取るなど、情報を得る工夫をさせる。</li> <li>・ 積極的に質問をするよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き手にとって分かりやすい発表をしようとしている。</li> <li>・ 収集した情報を踏まえて多面的・多角的な視点から文章にまとめている。</li> </ul> <p>【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 [発表、ワークシート]</p>

### (3) 授業の概要

#### ① 1時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の学習内容の予告と教科書の関連する内容を確認する。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒による発表①「18世紀の主な出来事」、生徒による発表②「江戸時代の人口変動」を聞いて、学習した内容を確認する。また、重要と思うことや興味をもったことはメモを取る。</li> <li>・ 発表を聞いて得られた情報をもとに、18世紀の人々の生活はどのようなものであったかワークシートに文章で表現する。教科書や資料集も参考にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に4名の生徒に二つのテーマについて調べさせておく。</li> <li>・ わからない点は積極的に質問するよう促す。</li> <li>・ 教科書や資料集も参考にさせる。</li> </ul>
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の学習内容についての予告を聞く。</li> </ul>	

1時間目の学習内容は、単元の導入として、18世紀の全体像を把握させるとともに、既習事項を確認するためのものである。そこで、1時間目の授業を実施するのに先立ち、希望する生徒を募り以下の作業をさせた。

①資料集、教科書を参考に、18世紀の主要な出来事の年表を作成する。

②図書室の書籍や教師が用意する書籍を参考に、江戸時代の人口変動を示すグラフを作成する。

教師が説明をしてもよかったのだが、このような生徒による事前調査と発表を行ったのは、この単元を生徒中心に進めたいと考えたからである。協力を申し出たのは4名の女子生徒であった。彼女たちは放課後等、図書室や教室で一糸懸命に作業に取り組んでいた。

また、発表に対しても、聞く側の生徒たちは熱心にメモをとったり、積極的な質問を行ったりするなど意欲的に取り組む様子が見られた。



(協力してくれた4名の生徒)



(年表を作成する)



(人口変動についての発表)

生徒たちが作成した年表の項目は、以下のとおりである。

1702年	赤穂事件
1709年	徳川綱吉死去 生類憐みの令廃止 幕府、新井白石を登用
1716年	徳川吉宗が将軍に就任 享保の改革
1732年	享保の飢饉
1769年	田沼意次が老中になる
1783年	天明の飢饉 浅間山大噴火
1787年	松平定信老中首座就任 寛政の改革
1792年	ラクスマン根室来航

また、人口変動については、17世紀が「人口爆発」の時代であったのに対し、18世紀以降は「人口停滞」の時代であったことと、特に1720年代から1790年代初頭までは人口減少の時代であったことが発表された。

発表の時間は①と②を合わせて20分程度であった。発表を聞いて分かったことをもとに、教科書や資料集を参考にさせながら、18世紀の人々の暮らしはどのようなものであったのか仮説を立てさせた。さらに、その仮説を各自のワークシートに文章でまとめさせた。以下が、生徒の書いた文章である。

(A)

享保の大飢饉などにより、大きな打撃を受け、米問屋が米価急騰の原因を作ったとして打ちこわしが起きたり、浅間山の大噴火による飢饉で多くの餓死者を出した。全国で百姓一揆がおこり、都市では激しい打ちこわしが発生した。お金持ちの村民と、田畑を失った小作人が出てくる。自給自足的な社会のあり方が大きく変わり、村役人を兼ねる豪農と小百姓や小作人との間の対立が深まった。そして村役人の不正を追及し、村の民主的で公正な運営を求める小百姓らの村方騒動が各地で起こった。

(B)

- ・元禄文化により華やかな陶器や蒔絵が作られた。
- ・享保の改革が行われた。
- ・享保の飢饉が起きた。
- ・徳川吉宗が8代将軍になる。

(C)

農業や産業が発達していき、それで生計を立てる人がたくさんいた。米作りも農具が改良され使いやすくなり、多くの人々が楽になった。新田開発もされ多くの農業に関する書物が出版された。その中でも人々はお互いを助け合いながら生活していた。都市などでは歌舞伎や浮世絵などが流行した。

生徒が書いた文章は3つのタイプに分類できる。一つめは(A)のように飢饉や災害、打ちこわしなどに注目し、人々が生活するのに苦しんだ時代であるという内容を書いたもの。二つめは(B)のように、発表された内容などを箇条書きに記したのみで、時代像が描けなかったと推定できるもの。三つめは(C)のように社会が発展した時代であるという内容を書いたものである。生徒が提出したワークシート(25名分)の内容を上分類に従って分けると、以下のようになる。空白の生徒が多い理由としては、十分考えをまとめることができなかつたり、考えをまとめたものの、それを書く時間が取れなかつたりしたためと考えられる。

- ・生活が苦しかった時代…9名
- ・社会が発展した時代 …3名
- ・項目の羅列、箇条書き…5名
- ・空白 …8名

## ②2時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	・本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 40分	・2～3名で1班を作る。(全部で10班) ・資料A～Iについての教師の説明を聞く。 ・各班の中で1時間目に各自がワークシートに記入した文章を発表し合い、情報を共有する。 ・各班で話し合い、どの資料を選択するか決める。	・既習事項との関連に注意して説明する。 ・共通点や相違点に注目させ、18世紀の人々の暮らしについて、班員が共通のイメージをもてるよう発表させる。
まとめ 2分	・次回の学習内容についての予告を聞く。	

1班の人数を2～3名としたのは次の理由による。一つめは、2～3名ならば、活動の中で全員が何らかの役割をもてるのではないかと考えたからである。これ以上多いと役割をもたない生徒が出てくる可能性があった。二つめは、1時間目に各自がワークシートに記入した自分なりの時代像を発表し合うのだが、人数が多いとそれだけ様々な情報が出てきてしまい、班としての時代像を形成することが難しいのではないかと考えたからである。

実際に活動を始めてみると、全員が何らかの役割をもって参加することができていた。しかし、

各自の時代像を発表し合い班全体の共通した時代像を形成する話し合いは活発に行われていたものの、結論が出るのに多くの時間がかかっていた。その結果、どのような資料を選択するか、決定できない班が多く出た。個別の生徒の考えを、集団活動の中でどう生かすかということが、この後の活動でも課題になることが予想された。なお、教師が用意した資料は以下の9種類である。

- 資料A 16世紀末～19世紀初頭の田畑面積の変化と石高の増加を示すグラフ
- 資料B 16世紀末～19世紀後半の百姓一揆・村方騒動の発生件数の推移を示すグラフ
- 資料C 踏み車や備中鋤、千歯扱などの農具の絵、干鰯やメ粕を製造する様子を示した絵
- 資料D 紅花や藍などの写真、藍玉づくりや菜種油づくりの様子を示した絵
- 資料E 18世紀前半～19世紀前半の地域ごとの人口変動をまとめた表
- 資料F 天明の飢饉の様子を示した絵
- 資料G 浅間山の大噴火の様子を示した絵
- 資料H 江戸時代の博物学についての説明文と図版
- 資料I 18世紀～19世紀の庶民の間での旅行の流行と休養日に関する説明文

生徒の関心を高められるよう、絵画資料や写真、グラフを中心とした資料を準備した。また、原典史料はその読み取りに時間がかかることが予想されたので、まとまった説明が書かれている書籍の文章の抜粋も資料として提示した。

それぞれの資料について、教師が説明をした。また、選択の際には次の二つの点を留意するよう伝えた。一つめは、必ず二つ以上選ぶこと、二つめは、関連付けたり比較したりすることで、18世紀の農民の暮らしがどのようなものであったかがわかるような資料を選ぶことである。

実際に各班が選んだ資料は以下のとおりである。

1班	資料A	資料F	資料G	2班	資料E	資料I	
3班	資料B	資料E		4班	資料C	資料F	
5班	資料B	資料C		6班	資料B	資料H	
7班	資料D	資料I		8班	資料A	資料C	資料D
9班	資料E	資料F	資料H	10班	資料F	資料G	

三つの班が資料B、資料C、資料Eを、四つの班が資料Fを選んだ。それらは、授業で直接扱った内容に関する資料なので、多くの班が選んだものと考えられる。

### ③3、4時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動内容の説明を聞く。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中で話し合いをしたり、必要な書籍などの資料を活用したりするなどして、選択した資料の内容を関連付けて、18世紀の農民の暮らしについてまとめる。</li> <li>・発表に向けて、資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を十分読み取らせ、内容を理解させる。</li> <li>・資料だけでは関連付けが難しい場合は書籍を活用させる。</li> <li>・B4判片面1枚に、わかりやすく工夫してまとめさせる。</li> </ul>
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の学習内容についての予告を聞く。</li> </ul>	

3時間目と4時間目は図書室で活動を行った。選んだ資料の内容を関連付けて、18世紀の農民の暮らしはどのようなものであったのか、についてまとめることを目標とした。資料から読み取った内容をもとにまとめることを原則とした。ただし、資料からだけでは理解できないことがあったり、資料を関連付けるためにさらに情報が必要となったりした場合には、書籍を活用させた。また、まとめ方についてはB4判片面1枚にまとめることと、図を加えるなど見やすく、わかりやすくする工夫をさせた。さらに、必ず発表資料の中に18世紀の農民の様子について文章で表現する場所を設けさせた。

実際の活動の様子を見ていると、資料だけでは活動が進まず、3時間目の早い段階から書籍を参照している班が多かった。それらの班は、選んだ資料の背景や意味について、おもに百科事典や歴史事典で調べていた。



(図書室での活動の様子)



(教科書も参考にする)



(事典も活用)



(資料を見ながらまとめる)



(地図を作成している班)



(発表資料の作成)

以下に、各班が作成した発表資料を紹介する。

・青の地域は、普通の年でも災害がおきているため人口が  
入っている。百姓一揆が100件以上おきて  
いることがわかる。

・赤の地域は、一揆がおきているものの、  
琉球やアジアの国々と貿易が行われていたため  
南九州や四国は災害年でも平常年でも人口が増えて  
いると考えた。

・緑の地域は、平常年は人口が増えているものの  
災害年には人口が入っていることがわかった。江戸や  
大阪では米屋や富商を襲う打ちこがれがおきている。

(まとめ)  
災害やまき人がおきて、農民の生活がずしく、たくさん  
百姓一揆おきていて、人口が入っていると考えた。

3班

< 3班が作成した発表資料 >

この班は、**資料E**をもとに全国の人口増減の様子を地図に色分けして表現した。18世紀以降の人口停滞は全国一律に起きたものではなく、特に東日本では災害年だけではなく平常年でも人口が減少していることを視覚的にとらえられるように表現している。東日本の人々にとって18世紀は生活困難な時代であったという発表内容をわかりやすくする上で、この地図は効果的であった。

## 農民の増減と暮らし

18世紀は、技術が発展し、農具が良くなった。農具によって新しい技術を得て、より米を作れるようになるが、年貢として納めなくてはならない。→自給自足の支い暮らししかし、生産力が上がり、桑・麻・綿・油茶・蕎麦・タバコ・茶・粟物などの商品作物として生産して発展し、貨幣も得る機会が増大した。暮らしが安定し人口増加になった。

この班は、**資料C**と**資料F**を選んだ。農業技術が発達したことと、天明の飢饉の発生とをどのように関連付けるか苦心していた。図書館にある日本史辞典で調べたところ、踏車や千歯扱、千石筵など多くの農具が17世紀後半から18世紀初頭に発明、普及したことに気付いた。このことから18世紀前半は農具の発達の効果による人口増加が見られたが、18世紀後半は飢饉の発生による人口減少が発生したとまとめている。

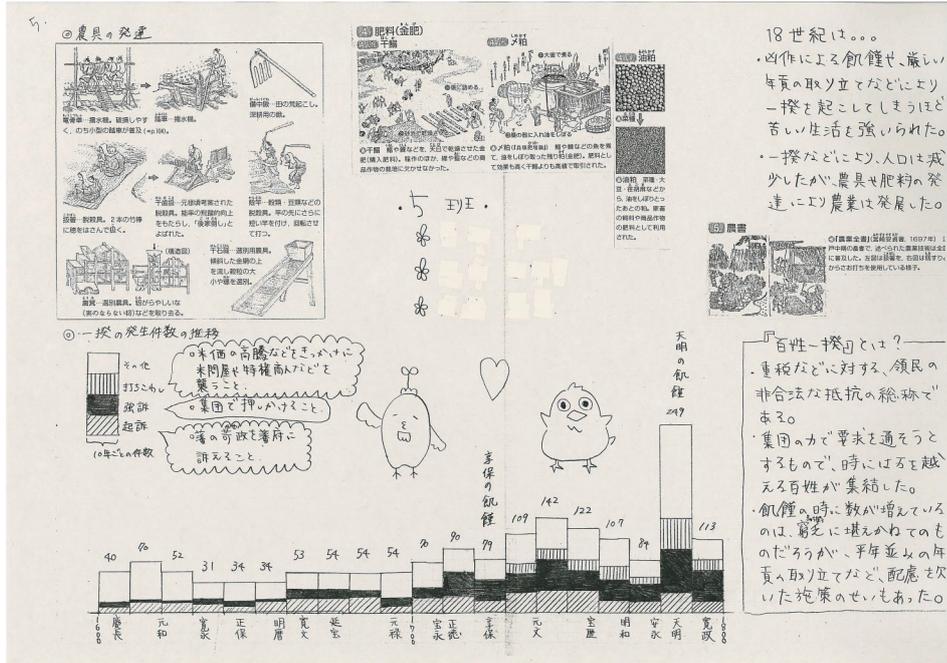
天明の大飢饉

冷害のせいで、浅間山の噴火もあって大飢饉となり、石一揆と弾圧が繰り返された。それにより、食糧が不足し、多数の餓死者が出て、生き残った人々は、ほとんどのに餓死者の肉を食べたのだと思われ。それにより、人肉を食した者、目や銀のようになり、江戸と東北地方の見聞を主とした「管工真澄遊覧記」に書かれている。このことから、天明の大飢饉によって暮らしはひどく良くなり、人口は減少したのだと思われ。

まとめ

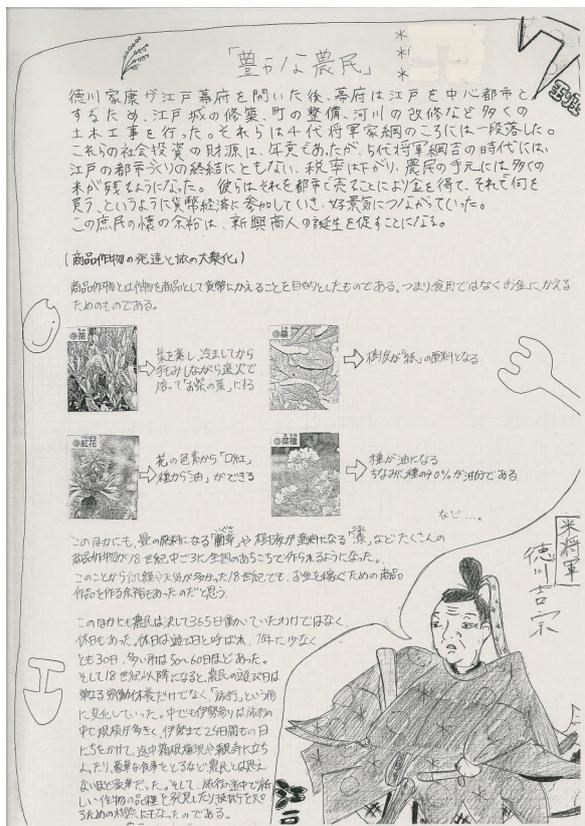
18世紀前半は、農業技術と肥料の発達により、暮らしが豊かになり、人口が増えたと考えられる。後半は天明の大飢饉のせいで、自然災害により生活は貧しくなり、前半よりも人口が減少したと考えられる。人口は、上記の通り前半増え後半減ったので、18世紀は安定した年ではないと思われ。

4班



< 5班が作成した発表資料 >

この班は、**資料B**をもとに事典や資料集を参考にして、百姓一揆の10年ごとの発生件数を集計し、棒グラフを作成した。18世紀半ばに一揆が増加していることと、天明の飢饉が発生した1780年代が突出して多いことが視覚的に明らかにされている。



< 7班が作成した発表資料 >

この班は、**資料D**に掲載されている商品作物について、その用途を事典で調べ発表資料にまとめた。また、吉宗が改革の一環として商品作物を奨励したことを資料集で調べ、吉宗の時代の農民の生活に焦点を絞りまとめている。

<10班が作成した発表資料>

この班は、**資料F**と**資料G**を選んだ。天明の飢饉と浅間山の大噴火の資料であるが、図書室にある書籍を活用して、その関連性について熱心に調べていた。また、書籍を活用することで、農民の生活が困窮した原因を自然災害だけに求めず、政策の失敗にも求めるなど多面的・多角的な視点から発表資料をまとめている。

B4判片面1枚にまとめさせたのは、5時間目の発表の際に、全員に資料を印刷し配付するためである。模造紙にまとめさせることも検討したが、各生徒に配付した方が情報が手元に残るというメリットがあると考えた。また、発表資料の中に、18世紀の農民の暮らしについてまとめの文章を書くように指示した。文章でまとめることで、理解があいまいな点が明確になったり、調べたことを聞き手に分かりやすく伝えることができたりするのではないかと考えたためである。

以下は、各班の発表資料に書かれたまとめの文章である。

<1班>

飢饉や噴火など災害に多くみまわれた時代だったが、農民たちは田畑の面積を増加させ石高を上げるなどして、農業生産を向上させ農業が発展した。人々が力強く生きた時代だった。

<2班>

一方では、飢饉や災害で苦しんでいる農民に対し、裕福な農民は旅行するなどゆとりをもっていた。このことから、貧富の差が激しいと考えられる。

<3班>

災害や飢饉が起きて、農民の生活が苦しく、たくさん百姓一揆がおきていて、人口が減っていると考える。

<4班>

18世紀前半には、農業技術と肥料の発達により、暮らしが豊かになりすぎたのだと思われる。

後半は天明の大飢饉のような、自然災害により生活は貧しくなり、前半豊かすぎた分、後半とても苦しんだのだと思われる。

< 5 班 >

- ・凶作による飢饉や、厳しい年貢の取り立てなどにより一揆を起こしてしまうほど苦しい生活を強いられた。
- ・一揆などにより、人口は減少したが、農具や肥料の発達により農業は発展した。

< 6 班 >

18世紀は、博物趣味のブームが起こり、人々はゆとりのある生活をしていたと予想される。そんな生活の中、享保の飢饉や天明の飢饉によって百姓一揆や村方騒動、打ちこわしが各地で起こり、人々の暮らしは貧しくなっていたと思われる。

< 7 班 >

18世紀は、商品作物が全国のあちこちで作られるようになった。飢饉や天災が多かった18世紀でも、お金を稼ぐための商品作物を作る余裕もあったのだと思う。また、農民は決して365日働いていたわけではなく、休日もあった。休日は遊び日と呼ばれ、1年に少なくとも30日、多い所では50~60日ほどあった。そして18世紀以降になると、農民の遊び日は単なる労働休養だけではなく、「旅行」という形に変化していった。中でも伊勢参りは旅行の中で規模が大きく、伊勢まで24日間もの日にちをかけて、途中、箱根権現や清見寺に立ち寄ったり、豪華な食事をとるなど、農民とは思えないほど豪華だった。そして、旅行の途中で新しい作物の品種を発見したり、技術を知るための機会にもなったのである。

このように農民の生活は思っていたよりも自由で豊かなものであったことがうかがえる。

< 8 班 >

- ・田畑の面積の増加や石高の増加によって、農業がさかんになった。
- ・都市の消費者の需要に応じるために農民たちは商品作物の栽培に励んだ。
- ・食べるものだけでなく植物を育てて衣料に使ったり、布を染めたり、ろうそくやたばこや油を作ったりして生産を発達させた。
- ・農書があったおかげで多くの人が技術を学ぶことができ、道具の進歩により効率よく仕事ができた。また、肥料の改良によって作物がよく育ったと思われる。
- ・18世紀の江戸時代の人々は自分の暮らしを支えるために自給自足の生活にも関わらず多くの困難を乗り越え、農業を発展させていった時代だった。

< 9 班 >

18世紀の人々は、飢饉によって、ほとんどの地域で人口が減少したことがわかった。また、江戸時代は博物学の流行があったことも調べてわかった。

< 10 班 >

浅間山の大噴火や天明の飢饉により日ごろから最低の生活をしてきた農民は食料を保存させる余裕はなかったため18世紀の人口は著しく減った。

無理な改革や自然災害のため、18世紀は人口が減少したのだとわかった。改革をして一番被

害を受けるのは農民だからこの時代の人は本当に可哀想だと思った。

まとめの文章を見ると、選択した資料の関連付け方には五つあることがわかる。1班や7班、8班は、農業技術の発達に注目し、農民が災害や飢饉などの困難の中にもそれを乗り越え、力強く生きた時代であったとまとめている。これらの班は、選択した資料を同時代の同じ農民層に関するものにとらえ、農業技術の発達による農民の生活の向上を中心に、資料の関連付けを行っている。2班も選択した資料を同時代のものにとらえている。しかし、貧困層と富裕層とに関する資料と考え、貧富の差があったという考察を行っている。4班と6班は、選択した資料の内容を時代の前後関係で関連付けた。3班と10班は、飢饉や災害、人口減少など社会の停滞や混乱に関する資料を選択したために、関連付けは十分にできた。しかし、農民層の困難な一面しかとらえることができなかった。5班と9班は関連付けが不十分であった。

#### ④ 5時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の活動内容の説明を聞く。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各班の発表を聞き、必要な情報をメモに取る。</li> <li>・ 各班の発表について、評価をする。</li> <li>・ 一連の学習活動で得た情報をもとに、各自で18世紀の農民の生活について文章にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一班3分で発表させる。</li> <li>・ 要点をまとめて簡潔に発表するよう指示する。</li> <li>・ 発表の内容や資料のまとめ方、声の大きさなどに注目させる。</li> <li>・ 箇条書きではなく通常の文章にまとめさせる。</li> </ul>
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一連の学習活動に対する教師の講評を聞く。</li> </ul>	

5時間目の学習内容は各班の発表と、各自でのまとめである。図書館で実施し、班ごとに着席するよう指示した。発表の時間は一班3分とした。短時間での発表なので、要点をまとめた原稿を作成するなど、各班で工夫するよう3時間目の授業の際に伝えておいた。

また、各班の発表に対して「発表評価シート」(資料)により評価させた。特に、発表の良かった点とそうでなかった点については文章で書かせた。このことで、わかりやすく発表する際の留意点について、生徒自身が気付くのではないかと考えたからである。



(発表の様子)



(発表を聞きながらメモを取る)



(発表を評価する)

## 発表評価シート

3年 組 名前 \_\_\_\_\_

- 1 他の班と比較して、自分の班の発表はどうでしたか。

4	とても良くできた	3	まあまあ良くできた
2	あまり良くできなかった	1	出来が悪かった

- 2 他の班の発表を評価してみましょう。

	評 価					評 価			
1班	4	3	2	1	6班	4	3	2	1
2班	4	3	2	1	7班	4	3	2	1
3班	4	3	2	1	8班	4	3	2	1
4班	4	3	2	1	9班	4	3	2	1
5班	4	3	2	1	10班	4	3	2	1

4	とても納得した	3	まあまあ納得した
2	あまり納得できなかった	1	納得できなかった

- 3 どの班の発表が一番良かったですか。 \_\_\_\_\_ 班

具体的にどのようなところが良かったですか。

- 4 説明が納得できない班はありましたか。 \_\_\_\_\_ 班

具体的にどのようなところが納得できなかったですか。

発表はほぼ時間通りに行うことができた。ただ、聞き手は、必要な情報をメモに取る作業と、発表評価シートに記入する作業とを同時に行うことになってしまい、集中して発表を聞くことができない状況に陥っていた。一方、発表資料をB4判にして、全生徒に配付したことにより、発表を聞きながら、疑問点などをそこに書き込んだり、興味を持った点にマーカーで印を付けたりする生徒が見られた。模造紙やスクリーンを活用しての発表よりも、今回の方法の方が利点が多いと思われた。

発表評価シートを集計した結果、最も高い評価を受けたのは7班の発表で、10名の生徒が支持した。次いで5班の6名であった。

7班を支持した生徒が書いた支持理由の中から、いくつか取り上げる。

- ・お金を稼ぐための商品作物を作る余裕があり、休日が多くあることが分かったため。
- ・説明がとてもわかりやすかった。図がはってあって見やすかったし、絵もあってよかった。
- ・うまくまとめてあって絵もあって、発表の時の声もよかった。
- ・分かりやすくまとめてあって、資料から読み取り、自分たちの考えがはっきりしていた。

5班を支持した生徒の理由は以下のとおりである。

- ・言葉の遣い方、読み方、まとめ方が上手だった。表が分かりやすかった。
- ・よくまとめられていて、自分たちが調べたことを聞き手に分かりやすいようにかみくだき上手く伝わってきたから。
- ・図やグラフがあり、簡潔にまとめられていてわかりやすかった。

7班の発表の評価が高かった理由として、選んだ資料の関連付けを上手に行うことができたことが挙げられる。つまり、この班は、商品作物の栽培が農民の生活にゆとりをもたらし、その結果、余暇の充実や旅行の大衆化が起きたという説明をしていた。この因果関係が、説明の分かりやすさとなって聞き手に受け止められ、高い評価につながったと考えられる。

5班の発表は、百姓一揆や干鰯などの語句について丁寧に調べ、その説明を踏まえて発表することができた。このことが、わかりやすさにつながったと思われる。また、他の班が、教師が用意した資料を切り貼りして発表用資料を作成したのに対し、5班は他の書籍などを参考に、資料の内容をさらにわかりやすく棒グラフ化したものを作成した。こうした工夫も高い評価につながったものと思われる。

全ての班の発表が終了したあと、一連の学習で得た情報をもとに、18世紀の農民の暮らしについてワークシートの欄に各自で文章でまとめる作業を行った。実際には10分弱程度の時間しか確保できず、多くの生徒は課題として翌日に提出した。

生徒が記入したものの中からいくつか紹介する。

18世紀の人々は、生活にゆとりがある時と、ゆとりがない時の二つを、どちらも経験していることがわかった。旅を農民がしていたり、休みの日がけっこうあったりと、楽しい生活の面もあり、飢えに苦しむ面もあり、どちらが本当というわけではなく、どちらもあった時代だということがいえます。

この生徒は、7班に所属して活動を行ってきた。7班は商品作物の栽培と旅行の大衆化、農民の休日についてまとめ、生徒から高い評価を得た。しかし、他の班の発表を通して、飢えに苦し

む面があったことにも気付き、それを踏まえて最後のまとめの文章を書いている。「どちらが本当というわけではなく、どちらもあった時代」というのは、この生徒が18世紀の農民の暮らしについて多面的・多角的な視点を得たことを示していると言える。

18世紀の人々の暮らしは、飢饉や噴火などの災害が多くおこり、農民の不満もあり、百姓一揆などの一揆がたくさんおこった時代であったが、農民は田畑の面積を増加させたり石高を上げるなどして、農業生産を向上させ農業を発展させた。このことから人々が力強く生きた時代といえる。

この生徒は、3班に所属して活動を行ってきた。3班は飢饉や噴火などの災害で人々が苦しい生活を強いられたことをまとめ、発表を行った。また、1時間目の授業で記入した18世紀の人々の暮らしに関する文章でも、「享保の飢饉がおこり、米価が上がり各地で打ちこわしが起こった。」と書かれていた。しかし、最後の文章を見ると、農業の発展の事実を踏まえ、「人々が力強く生きた時代」という表現でまとめている。

飢饉や一揆などで貧しい暮らしをしいられていたかと思ったら、休暇には旅行に行くなど豪華な生活を送っている時もあり、18世紀には貧富の差が激しいと思った。一概に貧しかったとは言えないと思った。

この生徒は、10班に所属して活動を行ってきた。10班は飢饉や噴火、失政などの影響で農民が苦しい生活を強いられたことを調べ、「この時代の人々は本当に可哀想だと思った」というまとめをしていた。しかし、上の文章を読むと、7班の発表の内容を踏まえて「一概に貧しかったとは言えない」というまとめをしている。

以上、3名の生徒の例を紹介したが、このように、多くの生徒が18世紀の農民の暮らしについて多面的・多角的な視点で考えることができた。

#### (4) 生徒による授業評価

ワークシートの最後に、一連の学習を終えて感じたことを自由に書く欄を設けた。回収して書かれた内容をみると、全ての生徒が今回の学習活動について肯定的な感想を書いていた。

書かれた感想を以下に紹介する。

- ・まとめるにあたって調べたりして新たな発見をすることができた。今までより深く知ることができたと思う。何が本当かは分からないけど調べるほどいろいろなことがでてくるなと思った。
- ・資料を見て調べながらまとめることは難しかったけど、江戸時代の人々の暮らしについて詳しく知ることができてよかった。
- ・江戸時代の人々の暮らしというのは、一揆がおこったり、災害や飢饉が起こってとても貧しい暮らしだと思っていたのに、よく調べてみたら、農業が発達したり、旅行をする農民も出てきたりしてゆとりがある生活もしていたんだなあとと思った。もっと他の歴史のことも調べてみたいと思った。
- ・この授業を通して、歴史とはただ教科書を読んだり聞いたりするだけでなく、自分で調べ、まとめることによって、よりいっそう理解を深めるものだと思った。
- ・資料を使って考え、まとめていく授業は久しぶりだった。まとめ方や資料ののせ方、見やすくする工夫ができた。普通の授業もすきだけど、たまにこういう授業もやりたいなと思った。

みんなと協力して頑張れたことも良かった。

- ・一番難しい資料を選んでしまった時は、うまくまとめられるかとても心配でしたが、最終的に班の人たちと協力してうまくまとめる事ができました。また、この授業を通して、18世紀の人々について詳しく知ることができました。このような、班に分かれて、調べものをして、発表をするということが久しぶりだったので新鮮でした。今回のような授業ができて良かったです。

感想を見ると、調べる活動を通して新たな発見をしたり、歴史に対する興味が高まったりしたことがわかる。また、自分で調べることで理解が深まることに、このような学習活動の意義を見出している生徒や、友人と協力することで目標を達成したことに意義を見出している生徒がいることもわかる。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、複数の資料を活用し、資料の読み取りや因果関係の考察、資料にもとづく解釈といった言語活動の充実を図るとともに、事象に対する興味・関心を高めたり、事象に対する多面的・多角的な見方を育成することを目指した。

生徒の感想に見られるように、自ら調べることで興味・関心が高まったり、理解が深まったりするなど、一定の成果が上がった。また、友人との協力で課題を解決することに意義を見出す生徒が出たことも、言語活動を充実させる上で重要な成果と言える。

また、5時間目に発表会を実施したことで、他の班の情報も踏まえて多面的・多角的な見方で18世紀の農民の生活について文章で表現できるようになっている。このことから、言語活動を取り入れた授業においては、単に調べてまとめるという段階にとどまらず、調べたことを発表する場を設けることが重要であることが改めて確認できた。具体例として一人の生徒の変容を紹介する。この生徒が、1時間目に18世紀の人々の暮らしについてまとめた文章は次のようなものであった。

#### < 1時間目 >

たびたび飢饉にみまわれた人々のくらしは苦しいものだったと思う。

この生徒は、1班として調べ学習を行った。1班は、飢饉や噴火に苦しんだ時代だったが、農業生産力の向上が見られることを踏まえて、「人々が力強く生きた時代だった。」とまとめている。

5時間目の最後に書いた文章は次のようなものであった。

#### < 5時間目 >

18世紀という時代は、飢饉や災害が数多く起こり人々は苦労が絶えなかったと思う。しかし、その反面、田畑面積が増加したり、石高も増加したりして農業生産が向上していった。また、人々の間でいろいろな趣味がブームとなって、くらしを楽しんでいたということで、災難に見舞われた時代と同時に人々のくらしはある意味で充実、豊かだったのかもしれないと思う。

いろいろな趣味がブームになったのは苦しい時代に、生活を豊かにするためのものだったのかもしれないと感じました。

文章を読むと、自分たちで調べた内容に加え、他の班の発表から得られた情報も含まれていることがわかる。

さらに、最後の感想では次のように書いている。

<感想>

教科書をただ読み覚えるよりも、自分たちで調べていくことでより自分の頭で考えてから覚えることで頭の中に残り、理解度が全く違うと思いました。一枚の紙にまとめるという作業は、自分の考えを表現して整理することで理解が深まりました。

また、授業に対する生徒の感想が全て肯定的なものであったことに表れているように、生徒は一連の活動に意欲的に取り組んでいた。特に、3時間目と4時間目に図書室で行った活動の際には、各班で活発な話し合いが行われたり、資料の内容に関する疑問や、書籍の紹介などに関する質問が、机間指導をしている教師に多く寄せられ、教師と生徒との会話が増えたりするなど、生徒同士及び生徒と教師とのコミュニケーションの機会が増えるという効果も確認された。

以上のように、言語活動を取り入れることによって、生徒の歴史に対する興味・関心が高まったり、事象に対する多面的・多角的な見方ができるようになったり、あるいはコミュニケーションの機会が増えたりするという成果を得た。今後とも、通史的な学習内容との関連を重視しつつ、計画的に言語活動を取り入れていきたい。

## (2) 課題

今回の事例では、複数の資料を選択し、関連付けることが目標の一つであった。しかし、実際に行うと、選択する段階で多くの時間を費やした。また、資料を選択したものの、その関連付けに悩んでいる班も多かった。

円滑な活動を行うには、既習事項との関連が深い資料を用意するか、事前に資料について教師から十分な説明をするかのいずれかが必要であることを再認識した。しかし、こうした配慮をしすぎると、生徒の追究しようとする意欲を高めることができなくなるとも考えられる。今回、資料の関連付けに悩み、うまくまとめられなかったいくつかの班の、3時間目と4時間目の活動の様子を見ると、かえって活発な話し合いを行っていたり、書籍を利用して調べたりしていた。言語活動を取り入れた学習においては、発表やまとめの文章といった、学習の成果だけではなく、そこに至る活動の過程も重要である。従って、円滑な活動を促すことと、追究しようとする意欲を高めることとのバランスを意識して資料を用意しなければならないと感じた。

### 事例3 地域の歴史に関する資料の読み取りをもとに、社会的背景について考察し、表現する授業

#### 1 ねらい

新学習指導要領において、「日本史B」では内容の全体にわたる配慮事項として、「年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。」とされている。目標にも「諸資料に基づき」という文言が新たに示されたように、「資料を一層活用させる」ことは今回の改訂で重視されている内容の一つである。この「一層の活用」とは、単に資料から、その内容を読み取るのではなく、自ら資料を収集・選択したり、資料を批判的に読み取って解釈し考察に生かしたり、その成果を表現したりすることである。

また、同じ内容の全体にわたる配慮事項として、「地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること。」とある。これは、従前の学習指導要領では内容の(1)の中項目の一つとして位置付けられていたものであるが、今回の改訂では、言語活動の充実を受けて、諸資料に基づいて歴史を考察し表現する学習を重視する視点から、各時代の内容とのかかわりの中で地域社会の歴史と文化をとらえさせるようにしたものである。従って、単に地域の歴史を通史的な学習内容に関連付けて単発的・トピック的に扱うのではなく、新旧の地形図や写真、県史や市町村史など地域の歴史に関する各種資料を活用したり、現地の文化財を観察したりするなどの学習活動を工夫する必要があるとされている。

これを踏まえて本事例では、学制を題材に取り上げた。学制については、多くの教科書でその発布により国民皆学教育が目指されたことと、画一的な制度が地方の実情に合わなかったために就学率が高まらなかったことが扱われている。本事例では、就学率を高めるために栃木県内各地で取られた対策に関する資料を取り上げた。はじめに、資料の内容を読み取り、次に読み取ったことをもとに社会的背景を考察したり、考察したことを発表したりする活動を行った。こうした活動を通して、学制発布当時の栃木県の社会の様子を具体的に把握し、学制に対する興味・関心を高めることを目指した。

なお、実践は第3学年を対象に行った。また、学制が発布された1872年当時には宇都宮県と栃木県が存在した。両県が合併して現在の栃木県が成立したのは1873年6月15日である。本事例で扱った資料は1873年6月15日以降のものであるので、本文中に出てくる「栃木県」は全て現在の栃木県を指している。1時間目の最後に、生徒にもこの事情を説明した。

#### 2 授業実践

##### (1) 指導目標

- ・ 資料の内容を理解し、社会的背景を考察することができる。
- ・ 考察したことを文章に表現することができる。

##### (2) 指導計画（3時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
1	・ 学制から教育令までの流れを理解する。	・ 学制の問題点と教育令の内容とを対比し	・ 学制の欠点を踏まえて教育令の意義を理解してい

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学制発布直後の栃木県の就学状況について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理解させる。</li> <li>・ 相談を促すなど、自由に発言できる雰囲気を作るよう留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料に関心を示し、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 〔ノート、話し合い〕</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2～資料4を読み、班で話し合い、その内容をまとめ、社会的背景を考察する。</li> <li>・ 資料の内容と考察したことをノートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 辞書を活用させたり、わかる語句に注目させたりして読み取らせる。</li> <li>・ 読み取った資料の内容と、そこから考察した社会的背景を区別してまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料に関心を示し、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・ 読み取った内容を踏まえて考察している。</li> </ul> <p>【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔話し合い、ノート〕</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめた内容をわかりやすく発表する。</li> <li>・ 一連の学習活動で分かったことについて、各自で文章にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み取った内容と、考察したこととを明確に区別して発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き手にとってわかりやすい発表をしようとしている。</li> <li>・ わかったことについて、文章にまとめている。</li> </ul> <p>【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔発表、ワークシート〕</p>

### (3) 授業の概要

#### ① 1時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の学習内容の予告と教科書の関連する内容を確認する。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学制から教育令にかけての流れについて、教師の説明を聞く。</li> <li>・ 学制発布翌年の栃木県の就学率を予想する。</li> <li>・ 就学率が低い社会的背景を予想する。</li> <li>・ 資料1を読み、資料中の空欄に当てはまる入学困難な理由を考える。</li> <li>・ 就学率が低い社会的背景について、資料1からわかったことを中心にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近くの友人との相談を促す。</li> <li>・ 何%と予想したか、挙手させ、黒板にその数を示す。</li> <li>・ 社会的背景と個人的理由の違いに留意させる。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の学習内容についての予告を聞く。</li> </ul>	

はじめに、学制が画一的な制度で地域の実情や国民生活の実態に合わなかったことを中心に説明し、その地域の実情や国民生活の実態とはどのようなものであったのか疑問をもたせるようにした。次に、学制発布翌年（1873年）の全国の就学率が約28%であったことを伝え、栃木県の就学率を予想させた。2～3分、時間を取ってから、「90%台を予想した人は挙手してください」というように、各%ごとに挙手をさせ、挙手した生徒の数を板書した。高い数値を予想した生徒は少なく、そこで挙手した生徒は意外そうな表情であった。結果は、20%台を予想した生徒が29名中、10名と最も多く、10%台が6名でこれに次いだ。30%台が5名、一桁台が4名、90%台、80%台、60%台、40%台が各1名であった。

以上の点を踏まえ、「政府が国民皆学を目指したにもかかわらず、就学率が低いのはなぜか」と発問し、その社会的背景を考察させた。その際、個人的理由と社会的背景の違いに注意させ、考察させたことをノートに書かせた。生徒が書いたものには次のようなものがある。

#### ①経済上の問題に関するもの

- ・家計が苦しくて働かなくてはならなかったから。
- ・兄弟が沢山いて、授業料が払えなかったから。

#### ②労働力の問題に関するもの

- ・子どもに家の手伝いをさせるため親が学校に行かせなかったから。
- ・農業とかで家の人が学校に行かせない。
- ・勉強よりも農業のための労働力として使いたかったから。

#### ③教育の必要性に対する人々の認識に関するもの

- ・教育の必要性をよく知らなかったから。
- ・学校の必要性をよく知らなかったから。

#### ④身分の問題に関するもの

- ・生活に余裕がなく通うことが出来ない。身分の差がある。
- ・身分によって、それぞれ仕事をやらなくてはいけないから。その仕事では生活が苦しいから。

内容を分類すると、以上の四つに分けられる。最も多かったのは①の経済上の問題に関するもので、15名の生徒がこの内容に触れている。また複数の内容にまたがる文章も多かった。記入が終わった様子を見て、数名の生徒を指名し、記入したことを発表させた。

次に、資料1を全員に配付し、以下の説明を加えた。

#### < 資料1 についての生徒への説明 >

- ・学制発布の翌年（1873年、明治6年）、学制が実施に移された。
- ・その年末、栃木県は全県で就学実態調査を実施した。
- ・資料にある「都賀郡石ノ上村」は現在では小山市内になっている。（小山市石ノ上）
- ・「寄附金額」とあるが、当時学校の設立にかかる費用の多くは、地元の寄付金で賄われた。
- ・資料は、石ノ上村の資料を世帯ごとに寄附金額を示し、就学者と不就学者との続柄と年齢、不就学者についてはその理由を書いたものである。
- ・この資料は『栃木県史 通史編6 近現代一』から引用したものである。

説明の後、資料1にある空欄（ a ）と（ b ）に当てはまる語を考えさせた。また、「入学難相成候」とは、「入学が困難である」という意味であることも説明した。

## 資料 1

都賀郡石ノ上村学校寄附金および就学・不就学男女一覧（明治6年）				
氏名	寄附金額 (円)	就学者 (続柄・年齢)	不就学者 (続柄・年齢)	不就学理由
O 1	20	三男 13. 3	女孫 6. 6	風邪身弱ニ付入学難相成候
Y 1	17			
A 1	17	長男 6. 9		
I 1	11	長男 11. 5		
Y 2	11	男孫 9. 2	女孫 6. 11	人少ニ而（ a ）為致候ニ付入学難相成候
A 2	11	男孫 9. 7		
A 3	9			
A 4	7			
I 2	5			
I 3	5		長男 9. 0	風邪ニ付全快次第入学可仕候
T 1	5		妹 11. 0	（ b ）ニ致置入学難相成候
Y 3	5			
I 4	5			
F 1	5			
A 5	5			
T 2	5		長女 10. 4	人少ニ而入学難相成候
			長男 6. 11	人少ニ而入学難相成候
I 5	4			
O 2	4			
T 3	3			
Y 4	3	男孫 9. 7	女孫 6. 11	人少ニ而（ a ）為致候ニ付入学難相成候
Y 5	3			
T 4	2		長男 9. 0	人少ニ而（ a ）為致候ニ付入学難相成候
Y 6	2		次女 11. 5	同上
O 3	2			
J	2			
L	2		長女 11. 1	（ b ）ニ致置候ニ付入学難相成候
Y 7	2		次女 8. 9	人少ニ而（ a ）為致候ニ付入学相成兼候
O 4	1			
I 6	1			
M	1		長男 9. 0	人少困窮ニ而入学難相成候
			甥 11. 5	（ b ）ニ致置入学難相成候
P	1			
A 6	1			
Q	8		長女 6. 8	当病ニ付全快次第入学可仕候
R			長男 8. 6	同上
Y 8			次男 12. 8	困窮ニ迫り入学難相成候
			次男 11. 6	困窮ニ付入学難相成候
F 2			三男 7. 8	同上
S			長女 11. 1	当病ニ付全快次第入学可仕候
E			長女 7. 0	困窮ニ迫り入学難相成候
計	185	男 6	男9・女11	

（出典）栃木県史編さん委員会編『栃木県史 通史編6 近現代一』栃木県、1983年、271頁。

資料を熱心に見て、隣の席の友人と相談する様子が教室のあちこちで見られた。机間指導をしていると、寄附金額が少ないほど不就学者が多いことや、就学者が全員男であることを指摘している生徒が多くいた。また、当時の1円は現在の価値でどのくらいの金額に相当するのかといった質問が教師に寄せられるなど、生徒の多くが資料に関心を示している様子が伝わってきた。10分ほど経過してから、数名を指名して考えたことを発表してもらった。「農業」、「家業」、「労働」という回答が出された。授業後に回収したノートを見ると、この時点で「子守」を回答している

生徒はいなかった。従って、( a )には「農業」、( b )には「子守」が入ることを伝え、生徒の中から「なるほど」という声が上がった。

最後に、就学率が低い社会的背景について、本時の学習で分かったことをノートにまとめさせた。さらに、他にも様々な背景が考えられることを伝え、次時の学習内容につなげた。

## ② 2時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 5分	・ 本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 40分	・ 班毎に、配付された <b>資料2</b> ～ <b>資料4</b> を読み取り、その内容をまとめる。 ・ 読み取った内容から、就学率が低い社会的背景を考察する。 ・ 読み取った内容と、考察した内容とを区別してノートに書く。	・ 資料は一人に1枚ずつ配付する。 ・ 図書館の書籍を活用させる。
まとめ 5分	・ 次回の学習内容についての予告を聞く。	・ 発表時の役割分担をしておくよう指示する。

2時間目は学校図書館で実施した。資料の読み取りに際し、学校図書館にある書籍を活用させることを考えたためである。配付した資料は**資料2**、**資料3**、**資料4**の3種類である。生徒は6班に編成したので、同じ資料を二つの班に配付した。また、資料は班に1枚ではなく、一人に1枚ずつ配付した。調べる過程で各自で書き込んだり、印をつけたりする便宜を考えたためである。資料については以下の説明をして、資料を読み取る「コツ」も伝えた。

### <資料2～4についての生徒への説明>

- ・ 前の時間に確認したように、学制発布にも関わらず、経済上の理由などがあり県内の就学率は全国同様20%台と低かった。
- ・ **資料2**は学校に対する人々の意識に関するものである。**資料3**は教育の必要性に対する人々の意識に関するものである。**資料4**は就学率を高めるために地域がとった経済上の対策に関するものである。

### <資料を読み取るコツ>

- ・ 全文を訳すのではなく、わかる単語に注目して、その前後を中心に意味を考える。
- ・ 意味のわかるところには印を付けてみる。
- ・ 声に出して読んでみる。

活動が始まると、早速わかるところに蛍光ペンで印を付ける生徒や、自身の電子辞書を駆使して解読を始める生徒がいるなど、意欲的に取り組んでいる様子が見られた。班によっては、長い資料を分割し、訳をそれぞれのパートに分担するなどの工夫が見られた。

当学校設立之基タルヤ、厚御趣意ヲ体認シテ家ニ不学ノ人ナカラシメン為ナレハ、幼童ヲシテ開化文明ノ域ニ進マシムルヲ要スル処也、然ト雖民間隔景ノ地ニ於テハ、固癖陋習ニ沈泥シテ、今日子弟ヲ校ニ就キ学ヲ修メシムルニハ美服ヲ着、好食ヲ必携セスンバ入校能サルナト、無謂儀吹聴致候モノモ有之由、右様之輩ハ却テ厚御趣意ヲ相悖リ候ノミナラス、他人ノ妨ヲ為シ不都合之事ニ候条、以来決テ衣食ニ心ヲ勞スルナク、速ニ子弟ヲ学ニ就セシメ、授クル学科ヲ研究シテ利害得失ヲ知覺シ善道ニ進マシムヘシ

一 弁持参之モノハ麦飯ニ限り候事

但米ノ飯、魚類等決テ不相成候

一 衣服ハ常用之服ニ限り候事

但衣服絹布ハ決テ不相成候

右ノ通小前へ不洩様御懇諭被成、入校候様御注意有之度候也

九月二十四日

午後三時

共励学校印

村々

用掛

御中

世話方

明治六年「学校設立書類」

足利市大久保町 川田猛氏所蔵

(出典) 栃木県史編さん委員会編『栃木県史 通史編 6 近現代 1』栃木県、一九八三年、二七三〜二七四頁。

資料 2 の内容は、学校に対する人々の意識を反映したものである。資料によると、「固癖陋習」の中にある人々の中には、学校へ行くには「美服」を着て、「好食」を持たせないといけないということを吹聴しているものがあるというのである。生徒にとって、前半の読み取りは難しいが、箇条書きの部分は容易に読み取りができると予想した。実際の授業の様子を見ても、二つの班とも箇条書きの部分を先に取り組んでいた。

学校之義ニ付度々御布告も有之候ニ付、幼童入校之儀用係中より熟説候得共、未タ固脩之輩も有之甚心得違之事ニ付、一体学校之教訓ハ皇国并外国一般之善事を集め、悪習を去り、漢学ハ十三歳以下之輩ニハ難学難解ものにして、十三歳以上ニ相成候得ハ各職業ニ移リ候故、其働を知らずして止学候てハ勞して功無きなり、依て今般之小学校教則ハ習安クして其理を解し、十三歳迄之学習にて原民ニハ都て事足り候事ニ相成、難有御主意等果々相心得候てハ以之外ニ候間、今般就学不就学之者取調候処不都合之向も有之候間、村々より差出し候帳面へ見留印致し相回シ候間、各村々之分受取見留無之分ハ惣体入校為致候様取計可申、病氣等之者ハ御用取扱所へ呼寄、傭医ニ検査為致、其他彼は苦情申者候ハバ是又取調候間、各村宿用掛中得其意銘々取調、入校之向ハ当三月二十二日迄ニ入校為致、彼是差支申者ハ取扱所へ同道可有之候、将此廻章村名下并受印之上昼夜時付ヲ以迅達周旋より返却可被成候也

御用取扱所

第七年

三月十八日

明治七年『御用留』

足利市下洪垂 小川太平家文書

(出典) 栃木県史編さん委員会編『栃木県史 通史編6 近現代1』栃木県、一九八三年、二七五頁。

資料3は、今回配付した資料の中で、生徒にとって最も読み取りが難しいと思われるものである。内容は、漢学に比べて新しくできた小学校で教える内容は、13歳までに学習すれば日常生活に十分役立つことと、不就学の理由については各地区の御用掛が十分調査し、就学を促すこと、さらに、就学に従わないものは取扱所へ同行させることである。当時の人々の教育の必要性に関する意識が反映した資料と言える。この資料を担当した班には、2～4行目を中心に訳すよう助言した。

区内貧民就学扶助法

生徒一人一ヶ年諸費概算

一 金二十六錢四厘

一 金二十四錢

一 金四十八錢

一 金十二錢

一 金三円六十錢

一 金二円七十錢

右六歳以上十歳迄 支給候事

合金六円四十錢〇四厘

一 金二十六錢四厘

一 金二十四錢

一 金四十八錢

一 金十二錢

一 金四円八十錢

一 金三円六十錢

合金九円五十錢四厘

右八十一歳以上十四歳支給候事

(帖)

半紙十二状

墨 十二丁

筆二十四本

石筆十二本

米六斗一升五合

但一日一合五勺ツ、

麦六斗一升五合

但一日一合五勺ツ、

半紙十二状

墨十二丁

筆二十四本

石筆十二丁

米七斗二升

一日二合ツ、

麦七斗二升

一日二合ツ、

区内

旧石高六千八百八十三石三斗五升

高一石二付玄米一升宛

此集米六十八石八斗三升三合五勺

合金四百〇四円九十錢余

但一円二付飯ニ

一斗七升二定ム

右ハ其年貧生ノ多寡ト穀価高低ニ応シ出穀ス、一村限り用係ニテ取纏メ御用取扱所へ差出シ区内貧生ニ割与スルヲ法トス、尤昨今仮ニ旧石高二賦課シ追テ地租改正ヲ待テ改定スヘシ  
右扶助ヲ請テ就学スル貧生ハ家業ノ後専門ニ入、家業ニ就テ後其才愚ニ随ヒ教員助教又ハ舎長僕ヲ必満ニケ年為相勤、其後猶続勤スルモノハ相当ノ月給ヲ支給候事  
但為報恩満ニケ年中ハ相当ノ月給半額ヲ支給候事

右之通扶助ヲ受ケ就学スルモノハ成業ノ後必為報恩至当ノ勤務ヲ要センカ為メ、就学ノ節ハ其親戚兄弟ヨリ証書ヲ差出サシムヘシ

鹿沼市下茂呂  
柏瀬武福家文書

(出典) 栃木県史編さん委員会編『栃木県史 通史編6 近現代』 栃木県、一九八三年、二七七〜二七九頁。

資料4は、明治8年の文書で、都賀郡下茂呂村（現在の鹿沼市内）における就学奨励策を示したものである。1年間の学費を計算し、区内の「貧生」に支給するというものである。また、この奨学金を受けて就学した場合は、卒業後教員や助教等に2年間就くという「報恩至当ノ勤務」があったことも示されている。生徒にとっては箇条書きの部分と文頭のタイトルを見れば、おおよその内容を推測することができるのではないかと考えた。

展開に入って20分経った頃に、まとめに入るよう促した。まとめは、①資料の内容、②資料から考察した社会的背景とを区別してノートに書かせた。さらに、次回発表するので、役割分担をしておくことと、発表はノートにもづいて行うこととを伝えた。

### ③3時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 5分	・本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 40分	・ノートにもとづいて発表する。 ・各班の発表を聞き、疑問に思ったことなどを質問する。 ・今回の授業でわかったことについて、ノートに文章でまとめる。	・一班3分で発表させる。 ・質問は、同じ資料を扱った二つの班の発表が終わった時にまとめて行わせる。
まとめ 5分	・授業に関するアンケートに回答する。	

発表は各班3分程度を目安に行わせた。前時にまとめたノートにもとづいて、代表の生徒1名に発表を行わせた。二つの班に同じ資料を配付したので、質問は同じ資料を扱った班の発表が終わってからまとめて行わせた。各班の発表の中から三つの班の発表内容を紹介する。

#### < 1班の発表内容 >

##### ◎扱った資料：資料2

##### ①資料の内容

- ・学校を設立したのは、家に不学の人をなくすためである。
- ・幼いころから文明開化の域に進ませることが大切である。
- ・民間には学校へ就かせるには美服や好食を持たせる必要があると吹聴する者がいる。
- ・弁当は麦飯に限る。米の飯や魚はだめ。
- ・衣服は日常のものに限る。絹の服はだめ。

##### ②資料から考察した社会的背景

- ・人々は学校は特別なところで、特別な人や裕福な人が行くところだと思っていたと考えられる。この人々の意識が就学率が低い社会的背景ではないか。

< 3 班の発表内容 >

◎扱った資料：資料 3

①資料の内容

- ・ 学校で教えることは、日本と外国との善いことを集めたものであり、悪習を去るものである。
- ・ 漢学は13歳以下には難しい。13歳以上になると職業に就くが、その働きを知らず、役に立たない。
- ・ 今度の小学校は、学習しやすく、13歳までの学習で、原民には十分である。  
「原民」は土着の人の意味（インターネットより。）→住民のことか？

②資料から考察した社会的背景

- ・ 漢学に馴染んできた人々にとって、新しくできた小学校での教育が、どう役に立つのか、その必要性を理解できていなかったようである。

< 5 班の発表内容 >

◎扱った資料：資料 4

①資料の内容

- ・ 学校にかかる費用の概算  
6～10歳 6円40銭04厘                      11～14歳 9円52銭04厘
- ・ その金額を地区が貧しい生徒に支給する。
- ・ 貧しい生徒には米も支給する。
- ・ 支給を受けて就学した生徒は卒業後2年間は教員などに就かなければならない。
- ・ こうした扶助を受けて就学する場合は、就学の時に親戚兄弟より証書を提出させる。

②資料から考察した社会的背景

- ・ 貧しくて学校に通えない子どもがいた。村でそうした子どもたちを支援する制度があった。今の奨学金と同じものようだ。また、支給を受けて就学した生徒は卒業後教員になることが条件としてあることから、教員の数も足りなかったと考えられる。

発表内容を見ると、資料の読み取りも十分できており、さらに読み取った内容にもとづいて、社会的背景の考察もなされていることがわかる。

発表の後に、「今回の授業でわかったこと」というタイトルで、ノートに文章を書かせた。生徒の書いた文章には次のようなものがあった。

< 生徒 1 >

教育にまで経済格差が影響していたことが分かりました。昔は何をするにも大変だったと思いました。

< 生徒 2 >

栃木県では、就学率を上げるために様々な策を講じていたことが分かった。特に、美服や好食はだめというのは面白いと思った。

<生徒3>

最初は学校ができたときはいろいろなことがどうしていいのかわからなかったと思う。子守や農業をしたりして生活がただでさえ苦しい人が多かったから、学校へ行けない人も多かったと分かった。

<生徒4>

子どもたちを学校に行かせるためにいろいろな政策をしたことが分かった。そこまでしても国力を高めたかったのだと思った。

<生徒5>

子どもたちを学校へ行かせるために様々な対策を立てていることが分かった。こうした努力のおかげで私は学校に行けたんだなと思いました。

<生徒6>

今は当たり前のように学校に通えているけど、昔は家事とか子守とか大変だったんだなあとということが分かりました。

<生徒7>

就学させるのに必死だったんだなって思った。この時代の成果が後々の高度経済成長につながるのですかね。

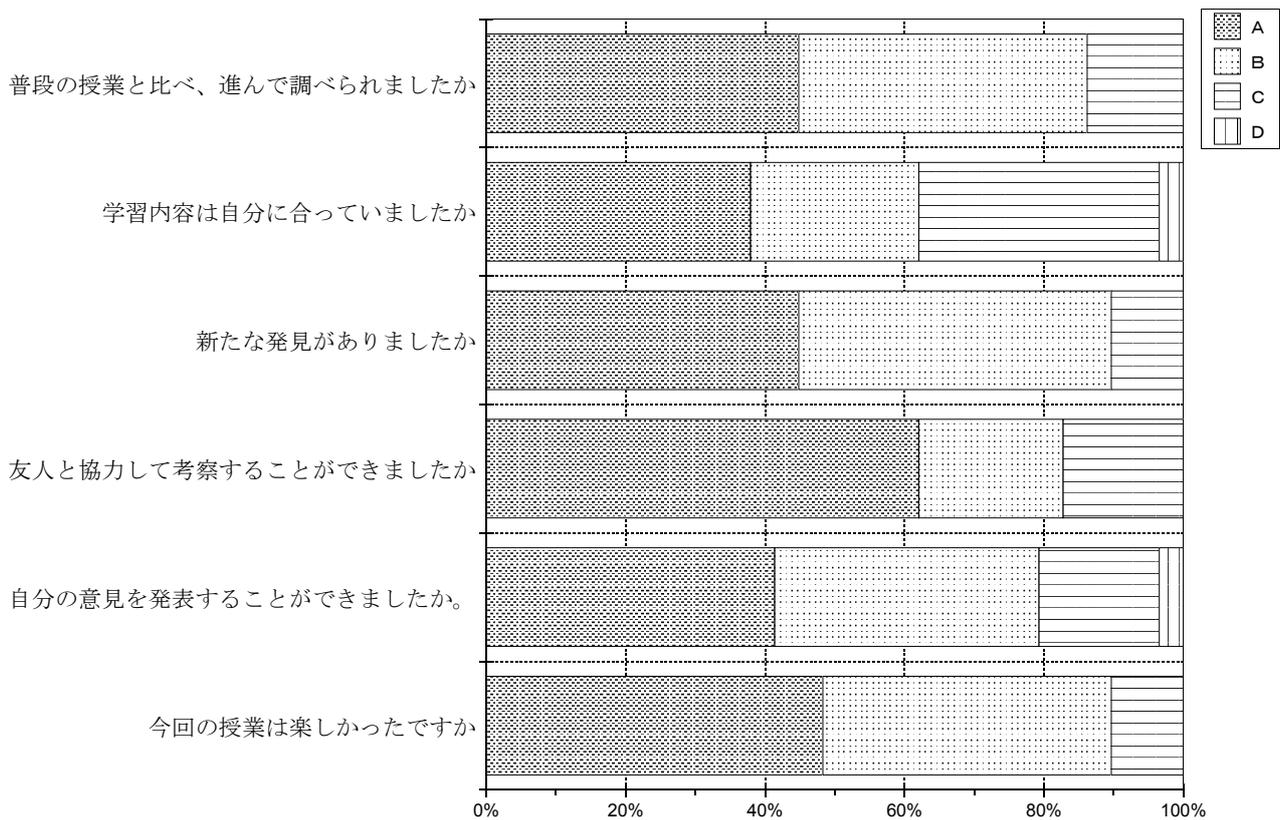
<生徒8>

特に苦勞を感じることなく学校に行ける今はすごいと思います。資料から、ここまでやらないと学校に行かない程昔は大変だったと思います。

書かれた内容を分類すると、<生徒1><生徒2><生徒3><生徒4>のように、当時の社会状況や県内各地で取られた施策に関する内容を書いた生徒が8名いた。<生徒5><生徒6><生徒7><生徒8>のように、現在の自分が置かれている状況を踏まえた内容を書いた生徒が18名いた。他に何も書けていなかった生徒が3名いた。いずれの生徒も、資料を活用することで、教科書に書かれている「当時の国民生活にあわなかった」ことの具体的な中身について、興味・関心理解を高めていると言える。

(4) 生徒による授業評価について

3時間目の終了後、アンケートを実施した。集計の結果は次の通りである。なお、評価はAが「あてはまる」、Bが「どちらかというにあてはまる」、Cが「どちらかというにあてはまらない」、Dが「あてはまらない」である。



また、自由記述の欄には次のような感想が書かれていた。

- ・グループになってやるとなかなか楽しい。
- ・話し合うのが楽しかった。他の人との意見の交換はよいと思った。
- ・みんなと話し合うことは楽しい。
- ・今までにないスタイルの授業だったので、楽しかったです。このような自分で考える授業もよいと思います。
- ・もっと面白い課題にしてほしかったです。

結果を見ると、班ごとに調べる活動に対する評価が高いことがわかる。特に、班の中で話し合う活動に生徒は高い評価をしている。一方、「もっと面白い課題にしてほしかったです。」という感想もあった。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、地域（栃木県）の資料を取り上げ、その読み取りと、読み取りにもとづく考察や考察したことを発表したりする活動を通して、学制に対する興味・関心を高めることを目指した。

各班の発表内容からわかるように、資料の読み取りやそれにもとづく社会的背景の考察については、一定の成果が上がったと言える。

また、「今回の授業でわかったこと」に書かれた生徒の文章から、地域の資料を活用したことで、学制に対する生徒の興味・関心が高まったこともわかった。配付した資料のいずれもが当時の社会の様子を反映した具体的な内容であったことが効果を高めるのにつながったと考えられる。今回は『栃木県史』に掲載されていた資料を活用したが、市史や町史などを活用すれば、さ

らに生徒にとって身近な事象を扱うことができ、社会的背景を考察する際にも、より主体的な態度が引き出せるのではないかと考えられる。当初、資料を口語訳したものを配付することも考えたが、授業での生徒の様子を見ると、原文のままのものの方が、生徒の調べる意欲を高めているようであった。また、新学習指導要領の内容の取扱いの(1)のオによると、地域社会の歴史と文化の学習について、「祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること。」とある。生徒の感想を見ると、この目標も達成できたと言える。

## (2) 課題

今回の実践で課題となったのは題材である。アンケートの結果からわかるように、「学習内容は自分に合っていましたか。」の質問に対する評価が低い。また、記述による回答にも「もっと面白い課題にしてほしかったです。」というものが見られる。

法律などの社会制度に対する学習は、生徒の苦手とするところである。しかし、今回の事例では、学制が発布された当時の栃木県の人々の状況を考察させることで、社会制度の課題を具体的に理解させることを目指した。生徒の興味・関心を十分高めることができる題材であると考えられたが、1時間目の導入段階での説明不足がアンケートの結果に表れていると考える。

## おわりに

本研究の実践では、資料の活用をもとにした言語活動を取り入れた「日本史B」の指導の工夫に取り組んだ。各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことがわかる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

### 1 生徒の興味・関心を高める工夫

各事例のところで紹介したように、資料を活用する学習を行うことで、生徒の学習内容に対する理解が深まったり、歴史に対する興味が高まったりするという成果が出た。**事例1**で紹介した「教科書をただ読み覚えるよりも自分たちで調べていくことでより自分の頭で考えてから覚えることで頭の中に残り、理解度が全く違うと思いました。」という生徒の感想や、**事例2**で紹介した「自分で考えるという事で、教科書を読むだけの授業よりも理解ができた。」などの生徒の感想から、資料を活用する学習が、生徒の学習内容に対する興味・関心を高めたことがわかる。また、資料に関しては、**事例1**のように複数の資料を関連付けたり、**事例2**のように絵画資料を活用するなど、生徒の思考を促したり、興味・関心を高めたりするものであることが必要であろう。

### 2 グループ学習を取り入れる

各事例で行った授業後のアンケートを見ると、友人と協力して調べたり、話し合ったりすることを評価する内容のものが多かった。資料を単に読み取るのではなく、**事例1**のように複数の資料を関連付けたり、**事例2**のように資料から抱いた疑問について調べたりする活動、**事例3**のように原文を解読したりする活動は、グループ内での協力があって可能となった。このように、資料を効果的に活用するにはグループ学習を取り入れることが必要であろう。ただし、**事例2**で述べたように、グループ学習を展開する中で、個々の生徒が抱いた疑問が生かされないという課題もあることから、個別学習とのバランスに留意することや個々の生徒の疑問に対する教師のフォローも必要である。

### 3 発表の場を取り入れる

今回の実践では、全ての事例で発表の時間を設けた。限られた授業時数の中では、個人や一つのグループが調べて得られる情報には限界がある。しかし、学習の最後に発表の時間を設けることで、それぞれの生徒が様々な情報を得ることができ、その時代や事象に対する多面的・多角的な見方を持てるようになる。また、発表に向けて調べた内容を整理したり、わかりやすい資料を作成したりするなどの活動によって、調べた内容の理解を一層深めさせることができる。

### 4 通史的な学習内容との関連を図る

日本史Bにおける歴史を考察し表現する学習については『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』に「指導計画の作成に当たっては、この歴史を考察し表現する学習を単発的・トピック的な学習に終わらせず、通史的な学習内容とかがわらせて実施するとともに」と書かれている。今回の事例も全て通史的な学習内容と関連するものである。

資料を活用して課題を追究・探究する学習には時間がかかる。しかし、各事例の生徒の感想に見られるように、学習内容に対する理解が深まったり、興味・関心が高まったりする効果がある。このことから、通史的な学習内容と関連する題材でこうした学習を計画的に行うことが必要である。

### 5 学校図書館や図書資料を活用する

**事例1**と**事例2**では、学校図書館を活用したグループ学習を取り入れた。学習指導要領の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」には「情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに」とあり、そのために「各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物その他の資料を取

集・選択し、それらを読み取り解釈することなどの学習活動を取り入れること」とある。**事例1**と**事例2**では、生徒が資料から得た課題や疑問の解決のために、図書資料を積極的に活用する様子が見られた。豊富な図書資料の中から必要なものを探索し、情報を収集する活動を繰り返し行う事で、生徒の情報を主体的に活用する能力を養うことができると考えられる。

高等学校における教科指導の充実  
地 理 歴 史 科  
言語活動を取り入れた「日本史B」の指導

発 行 平成23年3月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>